

第2期「改善アクションプラン（3カ年計画）」[2012-2014]

（年度計画と自己点検・評価のチェックシート）

1 担当

部署	学長室	推進組織	学長スタッフ会議, 自己点検・評価全学委員会
担当教員	阿部 直人 (学長室専門員)		
事務担当	山本 幸一 (評価情報事務室)		

2 指摘事項

種別	2007年度認証評価 指摘事項
分類	二 自己点検・評価の体制
内容	問題点と課題が明記され、計画も提示されているが（自己点検・評価報告書 p.944）、中期的な達成目標がないため、今後はより具体的な計画を策定し、企画－実施－評価－改善のサイクルを形成することが望まれる。

3 評価時点の状況（現状と問題点）

<p>2007年当時、2006年度からは年度計画書と自己点検・評価の項目を揃えるようになったものの、自己点検・評価のプロセスと年度計画書のプロセスは連動しておらず、PDCAサイクルは不明確であった。</p> <p>2008年度には認証評価結果を受けて「改善アクションプラン」制度を創設し、評価と計画を連動させる仕組みを構築し、ニューズレターを発行しマネジメントサイクルに関する啓発・学習活動を続けているが、評価業務と計画業務の連携に基づき、適切な目標設定する業務は、担当者の意識に委ねられている側面がある。点検・評価結果を目標値の策定・計画決定と連動させる制度を全学的なシステムとすることが課題解決の方向性である。</p>

4 改善計画

最終目標 (何がどうなる)	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に対して検証可能な指標を付した中期的な達成目標が、策定される。 ・達成度を客観的に評価できる改善サイクルが、形成される。 				
目標指標	<ol style="list-style-type: none"> 1 第2期「改善アクションプラン」による改善件数のうち、達成度の数値が4と5の割合（A） 2 自己点検・評価と年度計画書の策定プロセスを連動させる工夫・仕組みの取組み個数、取組状況（B） 				
改善手段	<ol style="list-style-type: none"> 1 検証可能な評価指標を付した3カ年の中期目標を策定する制度（改善アクションプラン）を再整備し、毎年度達成度を評価する。 2 自己点検・評価のプロセスを改善し、評価結果を活用しやすい業務方法、システム方法を図る。 				
現状と目標 (目標)	実績	3カ年計画			計画後
	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
目標指標の 評価基準	<ol style="list-style-type: none"> ① アクションプランの改善件数増加、改善報告書の提出 ② 点検・評価と年度計画書のプロセスの連動方策の検証 	<ol style="list-style-type: none"> ① 第2期アクションプランの実施及び改善件数 ② 学長方針・年度計画書と評価とのリンクを検証 ③ 目標指標となる学内データの調査 	<ol style="list-style-type: none"> ① 第2期アクションプランの実施及び改善件数 ② 学長方針・年度計画書の依頼方法を変更 ③ I R実施に関わる調整、試行的な取組みに着手 	<ol style="list-style-type: none"> ① 第2期アクションプランの実施及び改善件数 ② 学長方針・年度計画書と自己点検・評価との改善サイクルの実施 ③ I R実施方法確定・開発 	<ol style="list-style-type: none"> ① 認証評価を活用した改善計画の策定 ② 年度計画書と点検・評価との改善サイクル実施状況の検証 ③ I Rの利活用の促進
備考	目標指標の評価基準では校地狭隘化等の長期にわたる課題もあるため、3年後の評価基準100%とはしていない。				

5 3カ年計画および活動実績と評価

1年度	計画		評価			
			1 活動実績と評価			
2012年度	活動目標 (何がどうなる)	<ol style="list-style-type: none"> 1 第2期アクションプラン（3カ年計画）の実施によって、自己点検・評価の結果が、計画に反映される。改善の必要な事項の改善が、進む。 2 学長方針・年度計画書と評価とのリンクについて課題を調査することで改善サイクルの構築についての検討が、進む。 3 学内データの現況を調査することから、I Rの実施方針が、決まる。 		実績と評価	<ol style="list-style-type: none"> 1 48項目に重点化し、実施した。 2 評価結果の学長方針への反映について試み、反映点をニューズレターで公表した。 3 2012年6月に学長室にI Rワーキングを設置し、基本構想案をまとめた。 	
	目標指標	<ol style="list-style-type: none"> 1 70%以上が改善 2 工夫を1か所以上 3 アウトプットとしての検討結果文書 		実績値	<ol style="list-style-type: none"> 1 達成度5と4の割合が66.7% (32/48件) 2 2か所 (学長方針への反映) 3 骨子(案)の学長スタッフ承認 	
	予算措置 (経常・政策)	経費要求	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (有の場合の予算 合計**万円) [経常経費] 自己点検・評価推進費 **万円 [政策経費] 内部質保証の推進経費 **150万円		2 問題点と改善方策	
	自己点検 2011年度	記載頁	全学報告書10章9頁 4 将来に向けた発展計画 (2) 長中期的に取り組む課題		活動目標1から3について、すべて実施し、概ね目標を達成することが出来た。1から3それぞれについて次の段階に進むことが出来る。 2の改善サイクルについては、評価結果から方針反映までを達成した。予算との連動は、教学企画事務室との連携により行う。3のI Rは、学内の諸課題をまとめたので、次年度は諸課題の解決に向けた活動を行う。	
	内容	次回2014年度の認証評価への態勢を整える。自己点検・評価体制の実質化と、学内各種データの効率的統合・運用を図り、I R機能の構築、マネジメントツール化につなげる。				

	年度計画 2013年度	記載頁 学長方針 II重要課題 (4) 内部質保証システムの推進と大学情報の公表		3 2012年度の達成度 (活動目標や目標指標に対して)															
		内容 評価結果に基づく改善方針に財政的な裏付けがなされるよう、評価結果と年度計画書(政策的計画)を連動させる。大学情報の適切な把握と分析を通じて自律的な改善・改革を推進する。		<table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td colspan="2">未達成</td> <td colspan="2">←→</td> <td>達成</td> </tr> </table>				○		1	2	3	4	5	未達成		←→		達成
			○																
1	2	3	4	5															
未達成		←→		達成															
2年度	計 画			評 価															
				1 活動実績と評価															
2013年度	活動目標 (何がどうなる)	1 第2期アクションプランの改善件数が、前年度よりも向上する。 2 学長方針・年度計画書の策定にあたって評価結果から検討したことが、分かるようになる。 3 IRシステムについて関係部署との調整を行うことで、ロードマップ及び整備計画が、確定する。		実績と評価 1 前年度より達成度が進んだ項目及び達成度5と4は35項目であった。 2 年度計画の様式に評価結果を記載するよう変更し、評価結果に基づく計画であることを可視化した。 3 IRワーキングにて、整備構想に基づく試行版を2014年2月に完成させた。															
	目標指標	1 80%が改善 2 工夫を1か所以上 3 IRロードマップの確定、整備概要書の確定		実績値 1 前年度より達成度が進んだ項目及び達成度5と4の割合が、72.1%(35/48件) 2 2か所(年度計画様式の変更) 3 整備構想確定、試行版完成															
	予算措置 (経常・政策)	経費要求	□無 ■有 (有の場合の予算 合計**万円) 〔経常経費〕自己点検・評価推進費 **万円 〔政策経費〕内部質保証の推進経費 **万円		2 問題点と改善方針														
		主な使途	学生アンケート業務委託費、IRシステム開発調査費																
	自己点検 2012年度	記載頁	全学報告書 第10章 内部質保証 (2) a 発展計画		3 2013年度の達成度 (活動目標や目標指標に対して)														
	内容	次回2014年度の認証評価への態勢を整える。自己点検・評価体制の実質化と、学内各種データの効率的統合・運用を図り、IR機能の構築、マネジメントツール化につなげる。																	
	年度計画 2014年度	記載頁 学長方針 II重要課題 (4) 内部質保証システムの推進と大学情報の公表		3 2013年度の達成度 (活動目標や目標指標に対して)															
		内容 評価結果に基づく改善方針に財政的な裏付けがなされるよう、評価結果と年度計画書(政策的計画)を連動させる。大学情報の適切な把握と分析を通じて自律的な改善・改革を推進する。		<table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td colspan="2">未達成</td> <td colspan="2">←→</td> <td>達成</td> </tr> </table>				○		1	2	3	4	5	未達成		←→		達成
			○																
1	2	3	4	5															
未達成		←→		達成															
3年度	計 画			評 価															
				1 活動実績と評価															
2014年度	活動目標 (何がどうなる)	1 第2期アクションプランの改善件数が、向上する。さらに、次期プランに向けた検証が、進む。 2 学長方針における目標の明確化が、図られる。そのことで、方針・目標に沿った評価が、出来るようになる。 3 IRシステムの将来像が、確定する。データを定義する等の試行版を拡張することで業務での利活用が、進む。		実績と評価 1 前年度より達成度が進んだ項目及び達成度5と4は、41項目であった。 2 学長スタッフ会議にて学長方針に政策ごとの基本方針を策定し、次年度以降の評価基準とすることとした。 3 IRを本番環境に移行した上で、教員分析に加え、履修分析等を行った。															
	目標指標	1 年度改善率で90%が改善(目標継続) 2 工夫を1か所以上 3 試行版から本番環境(ETL処理)構築、統合DBを追加		実績値 1 前年度より達成度が進んだ項目及び達成度5と4の割合が、85.4%(41/48件) 2 学長方針の項目を変更 3 本番環境を開始、履修DBを追加															
	予算措置 (経常・政策)	経費要求	□無 ■有 (有の場合の予算 **万円) 〔経常経費〕自己点検・評価推進費 **万円 〔政策経費〕内部質保証の推進経費 **万円		2 問題点と改善方針														
		主な使途	学生アンケート業務委託費、IRシステム開発調査費																
	自己点検 2013年度	記載頁	全学報告書 第10章 内部質保証 (2) a 発展計画		3 2014年度の達成度 (活動目標や目標指標に対して)														
	内容	学長方針における目標を明確化し、全学の動きを、評価し改善に資する検証を行う。全学の現況を把握するために、大学情報の適切な把握と分析を行い、自律的な改善・改革を推進する。																	
	年度計画 2015年度	記載頁 学長方針 II重要課題 (4) 内部質保証システムの推進と大学情報の公表		3 2014年度の達成度 (活動目標や目標指標に対して)															
		内容 教育の内部質保証の仕組みを強化するため、自己点検・評価体制の実質化と、学内各種データの効率的統合・運用を図り、IR機能の構築を進める。		<table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td colspan="2">未達成</td> <td colspan="2">←→</td> <td>達成</td> </tr> </table>				○		1	2	3	4	5	未達成		←→		達成
			○																
1	2	3	4	5															
未達成		←→		達成															